

【別添資料】

淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画（センター案）

事前説明資料

プラント案とセンター作成案の比較表

比較大項目	プラント案	センター作成案（別案）
(1) 平面概要図		
(2) 縦断概要図		
(3) 計画諸元	<ul style="list-style-type: none"> ◆オープン型(分割方式)最終処分場 ◆埋立面積：22,230m²(開発面積38,557m²) ◆埋立容量：25.4万m³ ◆事業期間：47年間(埋立期間37年間・維持管理期間10年間) ◆水処理施設：処理能力60m³/日、調整槽4,600m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆オープン型(期別方式)最終処分場 ◆埋立面積：約21,500m²(開発面積約38,000m²) ◆埋立容量：約25.7万m³(I期:7.5万m³、II期:18.2万m³) ◆事業期間：約47年間(I期:埋立期間10年間、II期:埋立期間27年間・維持管理期間10年間) ◆水処理施設：処理能力70m³/日(I期:35m³/日、II期:70m³/日)、調整槽7,100m³以上
(4) 主な相違点	<ul style="list-style-type: none"> * 事業主体の変更に伴い、「既設一廃処分場の埋立工程への影響」を回避するため、埋立の順序を変更したものです。 * また、2段階に分けて処分場を整備するため、「より一層の安全な施工」とすることができます。 * なお、基準以上の安全対策(3重遮水工、高度な水処理、電気漏えい検知システムなど)は変わりません 	<ol style="list-style-type: none"> ① 既設一廃処分場の埋立工程への影響を回避するため、2段階(I期・II期による期別計画)に分けて処分場を整備することにしました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ I期埋立は、既設一廃処分場の埋立作業工程とは無関係に埋立作業が可能。 ・ II期埋立は、既設一廃処分場の土壌堤施工後、十分な時間が経過した後に着手できる予定。 ② 2段階に分けることにより <ul style="list-style-type: none"> ・ II期部分の遮水工(遮水シート+遮光マット)への紫外線影響期間が短くなり、劣化を軽減できます。 ・ 区画割コンクリート擁壁を設置する必要がなくなります。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 構造物の安定対策が不要、遮水シートの施工性向上(遮水シートの損傷リスクの一層の低減)。 ・ 一方、区画埋立計画の変更により、水処理施設の規模は大きくなります。 ③ 水処理施設維持管理業務と管理棟内業務の効率的な運用を図るため、水処理施設の位置を変更し、管理棟と一体的に整備します。